

■地域の「人」・「もの」・「こと」 とのふれ合いを大切に

桂川幼稚園園長 城石俊弘

暑さが続く中、2学期がスタートし、子どもたちは、園の内外で元気いっぱい活動しています。2学期は、運動会、秋の遠足、生活発表会など、多くの園行事があります。それぞれの行事のねらいを明確にし、子どもの伸びにつながる充実したものにしたいと考えています。

国が定める「幼稚園教育要領」では「地域の自然、高齢者や異年齢の子どもなどを含む人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用すること」「幼稚園の幼児と小学校の児童との交流の機会を積極的に設けること」と示されています。

これらのことをふまえ、本園でも、地域の「人」「もの」「こと」の活用、小学校との体験・交流活動に力を入れています。

子どもたちが育てた野菜を庁舎のロビーで販売したり、夏季保育ではゆのうら体験の杜やキャンプ場を、生活発表会では住民センター大ホールを活用したりしています。また、王塚装飾古墳館の見学や町立図書館

でたくさんさんの絵本に触れる活動も続けています。さらに、英語活動や手話、キッズヨガ、リトミックの指導、園の畑の整備、ミニコンサート

等々、たくさんさんの地域の方々にお世話になっていきます。さつま芋の栽培活動を通じたとれたて村や桂川東アソビシヤス広場の方々との交流、小学校生活のスムーズなスタートのために行っている、サツマイモの栽培や給食体験、生活科の授業を通した小学生との交流も子ども達にとって



楽しみな時間となっています。

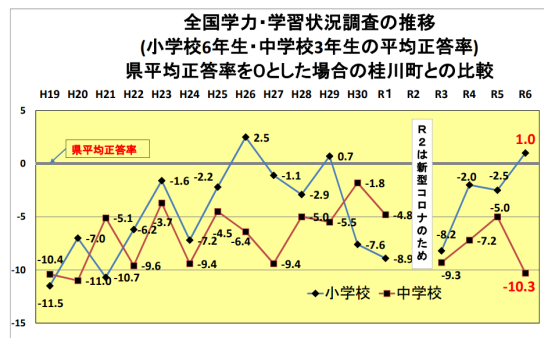
このように、桂川町のたくさんの方々、施設や自然と触れ合い、幅広く質の高い体験を得ることが、子ども達の豊かな成長の支えになるとともに、小学校へのスムーズな接続にも成果をあげていると感じています。

今後も地域に密着した教育活動を進めていきたいと考えています。皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

■令和6年度「全国学力・学習状況調査」における桂川町の児童・生徒の状況

学校教育課 教務係

4月に実施された小学校6年生と中学校3年生の令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果の概略を報告します。



本年度は、小学校・中学校ともに国語・算数(数学)の2教科で実施されました。小学校は7年ぶりに県平均を超えることができました。

このことは、これまで両小学校で行ってきた学力向上策が、ようやく実ってきたものと捉えています。残念ながら、中学校は県平均に届くことはできませんでした。

また、今年の小学校6年生・中学校3年生の家庭学習の時間が、昨年度の児童生徒と比べると減っています。

桂川町教育委員会といたしましては、この結果を真摯に受けとめ、福岡県教育委員会と連携しながら、桂川中学校に直に向き、今まで以上に支援してまいります。

全国学力・学習状況調査で測ることのできる学力は、あくまでも一部にすぎません。桂川町の子どもたちには「自分の良さや可能性を認識し、あらゆる他者を価値のある存在として認め、多様な人々と協働しながら、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となる。」そのような力を身に付けてほしいと願っています。

これまでの学校は「子どもを育てる」場でしたが、これからの学校は「子どもが育つ」場になることが必要です。学校教育課としましては、そのような環境づくりも支援してまいります。

無限の可能性を秘めた子どもたちが、光り輝くためにも、学校・家庭・地域が連携し、子どもたちを「鍛え、ほめて」いきましよう。